



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

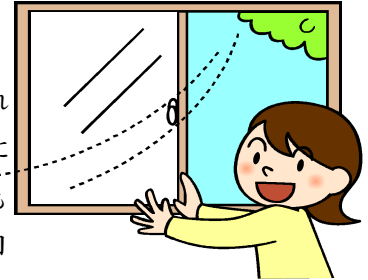
銀杏 (いちょう)

第 14 号

学校教育目標 「たくましい心と体をもち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬

今こそ“気づき 考え 行動する”とき!



分散登校から通常登校に戻り10日ほどが経過しました。先週は、遅れさせながらの仲間との再会に気持ちが高ぶり、子どもたちはつい“密”になってしまって先生方から注意される場面も見受けられました。それでもまた子どもたちの姿や歓声が学校に戻ってきたことは何よりです。13日

(月)の朝には、「よかったですね。また学校が賑やかになりますね。」と近所の方から声をかけていただきました。窮屈な思いは今しばらく我慢しなければならないものの、感染しない・させないために、そして学校での学びを止めないためにも、9月30日までのもう一週間は用心に用心を重ね、感染防止に高い意識を持った生活をしていきたいと思ひます。

さて、感染防止対策の一つに“換気”の重要性が挙げられており、本校でもその励行に努めています。先日は、学校薬剤師の浅尾京子先生に教室内の二酸化炭素濃度の測定をしていただきました。二酸化炭素の学校環境衛生の基準は1500ppm以下、さらに政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会では、マスクを伴わない飲食を前提として1000ppmが望ましいとされているそうです。その基準値と比較しても、測定した3教室は500ppmといずれもそれを下回り、換気が十分にできている状態だったそうです。また、体育館でもすべての扉と2階の窓すべてが開放された状態で授業が行われており、換気については問題ありませんでした。

こういった専門的な見地からの数値というのは、私たちが行っている感染防止対策の有効性を証明する一方で、それがよりよい方に向かっているほど気の緩みにつながる可能性があります。その心の隙を再び感染拡大に繋げないためにも、落ち着きを見せ始めた今が最も感染防止対策を徹底すべき時と自分自身に言い聞かせ、取り組んでいくことが大切だと思ひます。そういったことへの気づきと、その気づきを正しい“考動”へと移すことのできる子どもたちであってほしいと、先週の様子を見ながら強く感じました。

子どもたちは、学校で、授業をはじめ様々な行事や給食、清掃、係活動等やるべきことに取り組んでいますが、時には「やらされている」感が見え隠れしたり、興味・関心が長続きしなかったりすることがあります。ましてや、先の見えないコロナとの闘いではそれも無理はありません。そのような姿に私たちは、「一方的に指示したり教え込んだりすることが多くなっていないか」とか、「子どもたちに明確な目標をもたせていたか」、「子どもたちが自ら気づき、考え、行動する機会を十分に設けていたか」など、考えさせられたり反省させられたりすることがよくあります。

このコロナの感染防止を巡っても、誰かに指示されてから行動する南西中生ではなく、注意されたり叱られたりするから行動する南西中生でもなく、自分自身と仲間の健康・安全を守るために「自ら気づき、自ら考え、自ら行動できる南西中生」をめざして、今後も感染防止の取り組みを進めていきたいと思ひます。

Chromebook大活躍!



その1 事前学習に



コロナにより様々な行事が計画通りにできない状況が続いています。その最たるものが3年生の修学旅行です。5月がダメ、9月もダメと、すでに2回も延期をし、最後の望みとして計画した10月まではもう3週間足らずとなりました。今回は“新緑の奈良・京都”から“秋本番の信州”に変えての修学旅行となり、季節も違えば、見るもの・聞くものも違う、これはこれで趣のある旅になるのではないかと期待しています。

ただし、大変なのは事前学習。0からやり直したからです。しかし、何事も前向きに捉え頑張る緑学年の3年生ですので、心配はしていません。先週は、総合の時間に Chromebook を使って、主な見学地のポイントについて学習していました。

情報発信は廊下に陣取った長澤主任。画面に動画や画像を映し出しながら黒部ダムや善光寺など見学地の説明をしていきます。子どもたちは



はというと、各教室で Chromebook を開き、画面とにらめっこしながら説明に聞き入っていました。

コロナ禍にあってなかなか旅行に出かけられない状況がある中、「オンラインツアー」といった仮想旅行を楽しむ企画がちょっとしたブームになっていますが、そんな一端をのぞいているような光景でした。今後はさらに学習を深めたり、小布施散策のコースづくりをしたりと“修学”旅行本来の目的を見失うことなく準備を進めていくことになるでしょう。

その2 リーランの練習に

修学旅行と同じく10月に延

期した“いちよう祭”に向けても少しずつ取り組みを進めています。その一つがソーランの練習。1年生の体育の授業をのぞいてみると、そこでも活躍していたのが Chromebook でした。そこには、ソーランの動画を見ながら一生懸命練習する1年生の姿がありました。

もちろん、動画を見ながらの練習はこれまでも取り入れられていましたが、恐らく、大きなテレビに映し出される映像をみんなで見ながらというものではなかったかと思います。しかし今年からは“1人1台”の端末が与えられていますので、もう一度見直して練習したい箇所が一人一人違っていても、それに対応できる利点があります。実際、子どもたちは自分自身の課題に応じて練習内容を決め、Chromebook をササッと操作しながら繰り返し繰り返し練習していました。

一方、指導する私たちもICTの活用によって受ける恩恵があることに気づかされました。それは、練習している一人一人の様子をより丁寧に観察することができるため、子どもたちの必要に応じた指導や支援に寄り添えるという点です。動画だけに頼って練習しているかということそんなことはなく、松田先生を呼び止めては直接指導を仰いだり、一緒に踊ってもらって確認をしたりする子どもたちを何人も見ました。今後も機器と私たちとのハイブリッドによるより良い授業を目指していきたいと思っています。

